

(ナレーション)

川崎駅前優しい木のひろばは、森の少ない川崎で木に触れ、木で作れ、木で遊ぶをコンセプトに、2019年から開催されています。

3回目となる今回は、日本全国から、木材に関係する自治体や事業者など、14団体が出展しました。

例年は1日のみでの開催でしたが、今回は初めて2日間での開催となりました。

メイン会場のルーファ広場には、広場を囲むようにブースが並び、木のおもちゃで遊んだり、様々な木製品を手にとることができました。

また、各ブースでは、簡単な木工のワークショップが用意され、親子連れを中心に多くの参加者でにぎわいました。

こちらは宮崎県のブースです。宮崎県産の飫肥杉(おびすぎ)でできたパーツを磨いて、キーホルダーを作るコーナーが人気でした。

(宮崎県)

飫肥杉(おびすぎ)の特徴なんですけども、油分が多くて腐りにくいという特徴があります。あと、軽いので安全です。落としてもケガをしない、安全な杉になっています。

(ナレーション)

またこちらは、静岡県浜松市の天竜ヒノキをつかった、はしづくりのコーナー。ヒノキの良い香りが漂っていました。

(来場者)

凄い良い香りですね

(浜松市)

なかなか川崎市の方たちは、森林や木材に触れる機会が少ないと聞いておりますので、こういった天然の木を使って、実際に木に触れる事で、木の良さであったりとか、香りといった魅力に触れて頂くような機会がたくさんあって、私たちも非常にやりがいがあります。

(ナレーション)

今回初めて大学とも連携し、中央大学の学生が、企画・開発した木製品を紹介するブースも出展されました。

(中央大学)

木の温もりや手触りとか、匂いといったものに触れることで、木を身近に感じてもらうことができるのかなと考えています。

(ナレーション)

会場中央のメインステージでは、プロの林業家による、チェーンソーで丸太を切る、迫力の実演が行われました。客席から見ていた子供たちも、最後はステージに上がって、間近で参加する事が出来ましたよ。

こちらは、子供たちに人気の、音の教室カリヨンによるコンサート。ステージ前にたくさんの親子が集まりました。

5階のラズーンテラスには、木工はまだ難しい小さな子供でも楽しめるようにと、木のおもちゃで遊べる広場が設けられました。

(参加者)

昨日も来たんですけど、木のおもちゃがこれだけたくさんあるので、夢中で「今日も行く」といって、2日間連続で来ました。

(ナレーション)

会場には、福田紀彦川崎市長が視察に訪れ、今年ミス日本みどりの女神に選ばれた川崎市出身の成田愛純（なりたあすみ）さんとともに、会場を回りました。

成田さんは木の端材を使って、動物を作るプログラムも体験し、福田市長に作品を披露しました。

(成田愛純)

自ら木に触れることが、とても素敵な楽しいことだと感じました。

(川崎市長)

全国の林産地のみなさんに出展いただいて、それぞれの地域にあった木材を、いろいろな形に加工していただいて、生活の中に木がこういう風につかわれるんだということを、今日もすごくインスパイアされましたし、こんなアイデアがあるんだと気付いて、子どもたちもたくさんいて、どの世代でも楽しめるイベントになっているんじゃないかなと思います。確実に木材を利用したいという人たちが増えている、ですからこうしたイベントを通じて、木材の利用の可能性をみんなで探っていければと思っています。